

見学調査報告書

テーマ : 鉄道貨物輸送の役割と課題／日本社会における税関の役割と課題
ゼミ名 : 山本 慎悟 ゼミ
調査日 : 2024年9月30日(月)
調査先 : 羽田税関支署／日本貨物鉄道(株) 東京貨物ターミナル駅
授業科目名 : ベーシック演習Ⅱ・演習Ⅱ
参加学生数 : 9名(1年)、2名(3年)

調査の趣旨(目的)

・鉄道貨物輸送の役割と課題

海の玄関口である東京港に物流拠点を構える日本貨物鉄道(株)の事業所を訪ね、トラック以外の国内陸上貨物輸送手段である鉄道貨物輸送の役割を学ぶと共に、同業界における課題を探る。

・日本社会における税関の役割と課題

貿易取引やその他の場面において税関が担う種々の役割を学ぶことによって日本社会におけるその重要性を知ると共に、それが抱える課題を探る。

調査結果

東京税関羽田税関支署に到着後、最初に小型荷物の検査作業を見学した。羽田空港には海外から来た多くの小口の荷物を扱っており、一般個人が包装した包みに英語のラベルが貼ってあるものや大手配送会社のダンボールがあるのが見受けられた。小口の荷物であるため、輸送は旅客機に積み込まれたものだけであるとの説明を受けた。検査場のベルトコンベア台にはX線検査機が設置されており、そこに荷物を通して内容物をチェックしていた。またX線検査が終わった荷物を床に置き、実際に麻薬探知犬が荷物を嗅ぎ回る様子を特別に見学させていただいた。荷物の外周を麻薬探知犬が素早く走り回るという方法であり、数秒で終わるスピーディーなものであった。その後、会議室へと場所を移し、税関での仕事に関するDVDを視聴、その内容について詳しく説明を受けた。たとえば輸入品の関税率を定めた実行関税率表は毎年改正されるなど、輸出入に係る様々な制度が都度改正・制定されるため、知識をアップデートし続けることが求められるとのこと。またブランドの取り締まり等、税関で行われる取り締まりに関し、ブランド企業が税関と協力して取締を行っているとの回答を受けた。質疑応答では公的機関であるため、ホームページやパンフレット等に記載していること以上の回答を得ることは難しかったが、実際に職員が働いている様子の一部を見学できたことは輸出入に係る仕事や公務員の活動を理解する上で有意義であった。JR貨物では貨物ターミナル駅の見学をさせていただいた。貨物を載せ運行している貨車やコンテナはすべてがJR貨物の保有ではなく、約4分の3程度の保有となっている。JR貨物は博多から札幌までと日本全国に貨物を届けているが、区間により届けられる列車の規格などが異なっている。そのため一部地域ではけん引する機関車を変えるための貨物駅が普通の貨客駅の近くに設置されている。また貨物駅にはネットワークとしての機能を保持す

るために大量の倉庫や線路、引き車の設置がされている。鉄道貨物の特性として一回の輸送において定時制で大量に輸送することができる。実際には最大トラック 65 台分輸送をすることを可能にしている。また人員もトラックの 8 分の一程度で済ませることができる。これらの鉄道輸送の特性を活かし、2024 年問題の解決に取り組むことが求められている。2024 年問題の中で需要が増加すると考えられる中距離輸送についてトラック輸送やほかの輸送方法と協力しネットワークの強化に取り組むことが重要だと考えられる。また、輸送体系の見直しをしていくことも重要だ。さらに、社会貢献として輸送の際に出る二酸化炭素の排出の抑制にも取り組んでおり、国や荷主企業と協力し、環境長期目標を達成するために新しいフォークリフトの導入や省エネのための停車場構内の LED 化に投資を行っていたり、エコな貨物輸送を目指し、環境配慮型の機関車の配備や再生エネルギーの供給のため太陽光パネルを駅に設置したりしている。



JR 貨物東京貨物ターミナル駅事務所棟屋上にて



東京税関羽田税関支署入口にて